

## 令和元年度 横浜市立池上小学校 学校評価報告書

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①重点研究である「生活科・総合的な学習の時間」の学習を核にして、地域のもの・こと・人と進んで関わる中で、学級の仲間と学び合うことのできる学級作りを目指します。②日頃の授業の中で、話し合う機会を積極的にもち、仲間の意見を共感的に聴く力を育てていきます。	①地域材と積極的に関わる中で、仲間のよさに気付いたり人の多様性を理解したりしたこと、互いを尊重し合いながら学び合う学級風土が作られた。②話し合う場の設定を工夫したことで、学級はもちろん、全校で集まった際にも共感的に聴く雰囲気ができた。	A
豊かな心	①児童の実態をもとに、各教科において道徳の時間との関連を図りながら指導を行います。②豊かな人権感覚を育てるために、学年やブロックで道徳の授業プランを考えたり見合ったりし、子どもについての気付きを共有していきます。③各学級年に1回、道徳の授業を地域に公開します。	①子どもたちの人権感覚を育てるため、他教科でも道徳と関連つけた指導を行った。②人権週間では、子どもの実態をもとに授業プランを考え、実践した。振り返りの時間を大切に、子どもの気付きを教師間で共有した。③道徳の授業を地域や保護者に公開した。	A
健やかな体	①朝の時間を有効に使い、体力アップにつながる取り組みを行います。②体力テストや健康診断の結果等を保護者と共有し、家庭や地域と連携して、体力の向上、生活習慣の改善を行います。③「お口の健康を考えよう！」という目標をもとに、学校保健委員会を中心に実践していきます。	①②朝の時間を有効に使い、シャトルラン・長縄などに取り組み、体力アップに努めた。学校医からも助言をいただき、歯磨きの大切さを知ることができた。③学校保健委員会を年2回開き、口の健康について考え、保健委員会や各クラスで取組を考え、実行した。	A
児童生徒指導	①あいさつの取組や、菅田中ブロックの生活スタンダードをもとに、基本的な生活習慣の指導を積み重ねていきます。②毎月、職員間で児童や学級の情報共有を行い、全職員が連携して児童指導にあたります。	①菅田中ブロックの取組としてあいさつ運動を行い、高学年中心に、登校時間に元気な挨拶ができるよう取り組んだ。挨拶が日常化していくよう、指導を続けていく。②毎月の情報交換以外にも、必要に応じて全職員が情報共有し、連携して指導にあたる時間を確保した。	B
特別支援教育	①子どもの教育的ニーズを的確にとらえ、本人や保護者の願いも聞きながら、個別の支援計画を作成します。②学習支援がより効果的にできるように、学習ルームを活用します。③外部の専門機関とも連携して、児童理解や指導力の向上を図ります。	①子どもの教育的ニーズを捉え、本人や保護者の願いも聞きながら、個別の支援計画、指導計画を作成した。②学習ルームでは、個に応じた指導を行うことができた。③SC、通級指導教室、療育センターなどと連携して児童指導や指導力の向上に努めた。	B
地域連携・学校運営協議会	①保護者・地域の力を活かし、児童にとって、よりよい教育活動を実践するとともに、開かれた学校づくりに努めます。②見守り隊をはじめ、地域の協力者と児童がより近い関係になれるようにします。③ホームページで、学校の様子を毎月更新できるように体制づくりをします。	①様々な場で、保護者・地域の方から学んだり、連携を強化したりできた。ふれあい給食・見守り隊の会などでも、感謝の思いを伝えた。②HPで、学校生活・行事の様子を毎月更新した。みどりの大地協議会では児童の様子や学校の取組について、具体的に発信した。	A
自分づくり教育(キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で「手応え感覚」をつかめるようにします。②西菅田保育園と共に接続期カリキュラム研究推進地区の指定を受け、幼児期からの育ちと学びをつなぐスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントに取り組みます。	①地域の方と活動する中で、体験的に「手応え感覚」をつかめた子どもたちは、やってみたいことを進んで声に出すようになった。②全教職員で互いの教育活動を参観することで、目指す子ども像が共有でき、職員同士の連携が図られ、学校が安心して入学できる場となった。	A
安全教育	①学校全体で危機管理に対する意識を高め、災害等に適切に対応できるような校内組織体制を整えます。②警察や交通安全協会、家庭や地域との連携を図りながら防災・安全指導を継続して行い、児童の安全意識の向上を図ります。	①校内の危険箇所の改善や避難経路の見直しを行った。また、各訓練を行う際に毎回校内組織についての確認や検討を行い、常に体制を整えるようにした。②避難訓練や安全教室では、家庭や地域等に協力していただき、年間を通して児童への安全指導を行った。	A
いじめへの対応	①毎月いじめ防止対策委員会を開き、早期把握、早期対応に努めます。②情報共有を行い、教職員のアンテナを高くし、児童のサインを見逃さないようにします。③児童の心の動きをとらえるための、カウンセリングスキルを高めるための研修を行います。	①いじめ防止対策委員会を毎月開催。必要に応じて臨時に行い、早期把握・対応に努めた。②横浜プログラムアセスメント、いじめ防止アンケートなど計3回のアンケートをとり、児童の実態把握に努めた。③スクールソーシャルワーカーと連携し、児童指導のスキル研修を行った。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①年次研修及び校内研究では授業研究を通して、授業力や児童指導力向上のための手立てを学びます。②メンターチームの取組ではミドルリーダー・主幹教諭を中心に、経験年数の少ない教職員を全職員で支援します。③ブロック学年研を設定したり、児童理解・特別支援の研修を全職員で行ったりして、一人ひとりに寄り添った支援・指導の充実を図ります。	①③年次研修や校内研究では、授業改善や児童指導について、外部講師の助言や指導のもと、全職員で活発に討議し、学ぶことができた。②メンターチームの取組では、教科領域指導について学び合ったり、先輩教師から指導を受けたりすることができた。全職員が参画意識をもって校内運営に関わった。	A
ブロック内評価後の気付き	併設型小中一貫校として「9年間で育てたい子ども像」が共有されているので、子どもの成長を同じ視点からとらえることができた。中学校英語教諭による小学校のYICA授業への乗り入れや、小学校音楽教諭による中学校合唱コンクールへの審査員としての乗り入れなど、小中の教職員が共に子どもの学びを支える協力体制ができている。学校評価アンケートもブロックで統一して実施している。今年度の結果を分析し、生活習慣の定着や地域との活動について伸びがみられ、自己肯定感や表現力・思考力については今後一層の課題であること、方策として課題解決型の授業を目指すことをブロックで共有した。		
学校関係者評価	地域防災拠点訓練に小学生、中学生が参加する形態がしっかり構築されていることは大変良い。学習の場面、特に生活科や総合的な学習の時間などで、地域の方々に協力を頂くことも多い。スクールゾーン対策協議会では地域と共に通学路の安全確認を行ったり、池上まつりに地域の自治会や中学生が参加したりするなど、学校と保護者・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができている。学校だよりやホームページで、教育活動の様子を発信している。学校が行っている良い取り組みを今後も活発に発信していきたい。		
中期取組目標振り返り	子どもの視点に立ち、学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを目指した。特に、生活科や総合的な学習の時間では、子どもが学びたいことを大切に、地域の力をお借りし、豊かな体験を通して「手応え感覚」を味わえるよう指導・支援に努めた。学校評価アンケート結果からも、授業理解や学習意欲、地域との活動など多くの項目に伸びが見られ、取組による効果と見ることができる。一方、自己肯定感や表現力・思考力については今後一層の課題であるとする。自分や友達の良さや違いを認め合える子、自分の思いや考えを自分の言葉で自信をもって表現する子の育成に努めていきたい。		